

県研究主題

楽しい音楽活動を通して、音楽を愛好する心情や感性、音楽的な能力の基礎を育成する
学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 佐々木 神秘（湘南三浦地区）

<研究主題>

思いや意図をもって歌うための音楽活動

1 提案内容

校内研究における話し合い活動の実践を生かして、歌唱指導においても歌詞の内容や曲の特徴を言語化する手立てを工夫し、話し合い活動の充実を図ることで、音楽のよさや面白さに気づき、友だちと関わり合いながら歌唱表現の工夫を深めていけるように学習活動を進めた。

(1) 地区音楽会の合唱曲「希望のひかり」の歌唱指導を通して

① 手立て

「曲の様子や感じを表す言葉」を表にすることで、4年生の児童の語彙を補い、歌い方を言葉で表現しやすくした。また、思いをもって歌うために、歌詞から思い浮かんだイメージを書き入れて、全体で共有できるようにした。

② 成果と課題

成果としては、歌詞の意味を考えて歌い方やイメージを共有することで、曲に思いをのせて歌おうとする児童が増えた。課題としては、歌詞には注目させることができたが、旋律やリズム、強弱などについて十分意識させることができなかった。

(2) 「赤いやねの家」の歌唱指導を通して

① 手立て

楽譜を見ながら、旋律や強弱記号など音楽の要素を根拠にして、歌い方を考えさせた。旋律の特徴について一人ひとりで考えた後、グループごとにワークシートに歌い方を書き込んだ。さらに、各グループの発表を聴き合い、全体で歌い方を話し合った。

② 成果と課題

成果としては、根拠をもって歌い方を話し合うことができ、友だちの考えを認めたり、自分の考えと比べたりしながら歌い方を考えることができた。課題としては、言語活動の時間が多くなってしまい、音楽活動の時間が少なくなってしまった。

(3) 「チャレンジ！」の歌唱指導を通して

① 手立て

児童の思いだけでなく、旋律やリズム、強弱記号などの曲の特徴により注目させながら歌い方を考えさせ、拡大楽譜に書き込んでいった。また、歌い方について意見が分かれた際は、実際に歌ってみて考えさせた。また、繰り返し歌うことで、児童自身が自分たちの歌唱表現の変容に気づくことができるようにした。

② 成果と課題

成果としては、曲の特徴を丁寧におさえることで、音楽の要素を根拠にして歌い方を考えることができた。また、繰り返し歌うことで、曲想に合った歌い方に気づいて工夫すること

ができた。課題としては、フレーズごとに区切って歌い方を考えさせたが、児童の思考や活動の流れを止めることになってしまった。

(4) 実践全体を通しての成果と課題

普段からの取り組みを活かして、児童自身が歌い方を工夫し、歌う楽しさを感じることができ、主体的に活動することができた。一方、児童が思いや意図をもって歌うための授業づくりには難しさを感じ、どのような見取り（評価）が適切だったのか、という疑問が残った。

2 協議内容

協議の柱は「思いや意図をもって歌うための音楽活動～感じ取ったことを言葉で表すなどの言語活動の充実～」とした。

(1) 提案に対する質疑応答・意見

- ・ 初めて曲を聴く時から児童にイメージを出させて練習を重ね、イメージが膨らんだところで、再び共有する。
- ・ 話し合いの際に、言葉で表現することが難しい児童にはどんな配慮をしているのか。
→ 頷くなどの反応を促したり、友だちの考えに賛成、という意思表示をさせたりしている。
- ・ 児童一人ひとりの記述をどのようにまとめていたのか。
→ 実践（3）では児童の思いを聞いたらすぐに歌うようにした。
- ・ 前の実践の反省を活かして次の実践に取り組み、年間を通して研究を深めている。
- ・ 言葉の表は、表現だけでなく鑑賞にも使えるとよい。
- ・ 題材に関わる鑑賞曲を取り入れると、児童が判断する材料になるのではないか。
- ・ ワークシートや付箋に思いを書かせると評価ができる。
- ・ 思いを実践するための技能を指導することも必要だ。

(2) グループ協議での意見

- ・ 曲に出会ったときに沸き上がってきたものを表現させていくための手立てが必要だ。
- ・ 言語活動は、あくまでも手段であり、目的となつてはいけない。

3 まとめ

(1) 提案に対する助言

- ・ 児童自身が考えて表現を工夫することがとても大切であり、生きていくための力になる。
- ・ 語彙がまだ少ない児童にとって言葉の表はよい手立てだが、児童自身が出した言葉を共有して表にするとよい。また、言葉で表現しきれないのが音楽なので、言語化できなくても、一人ひとりを認めていくことが大切である。
- ・ 思いや意図には様々なレベルがあり、教師がその曲の中心的な曲想を意識して、そこを核として授業を計画することが大切である。まず、原曲の持ち味や特徴を感受させたい
- ・ 音楽科なので、「考える」→「振り返る」だけではなく、児童が表現するための技能を身につけさせるための支援も必要である。

(2) 提案に対するまとめ

- ・ 学級担任として、児童との関係ができていからこそその実践であり、教科指導と児童指導はつながっている。
- ・ 教員が楽曲分析をきちんと行うことにより、児童が作曲者の意図を汲み取ることができるようになる。児童の言葉から新たな発見があることもある。

| |
|--|
| <p><研究主題></p> <p>音楽のよさや美しさを感じ取り、創造的に活動する子ども</p> <p>— 表現と鑑賞が相互に関わり合う指導の工夫 —</p> |
|--|

1 提案内容

(1) 概要

児童が創造的に、すなわち、思いや意図をもって表現したり味わって聞いたりするためには、「表現と鑑賞の関連を図ること」や「題材全体を通して児童に身に付けさせたい力を明確にすること」が必要である。一授業の中だけではできることは限られるが、〔共通事項〕を支えとし、題材を通して表現と鑑賞の領域を行き来することで、学びの深まりが見られるようになる。

また、このような実践事例を冊子としてまとめ各学校に配布することで、指導や評価の在り方について、全市で共通理解を深めることに役立てている。

(2) 題材名 3年生「音を合わせて楽しもう」

(3) 題材目標

①旋律の重なりや強弱を聴き取り、それらの変化が生み出す楽曲の構造に気を付けて聴く感性を高める。

②旋律や音が重なり合う面白さに関心をもち、声や音を合わせて演奏する能力を育てる。

(4) 指導の工夫

① 指導計画の工夫…表現と鑑賞の活動を効果的につなげる

本題材では、まず鑑賞曲「かね」を、その後に歌唱曲「歌おう 声高く」を聴かせた。2曲を聴き比べることで、「音の重なり」という共通点に気付くことができた。

続いて、「音の重なり」を聴く力が育ったところで歌う活動を行ったことにより、二部合唱の面白さを感じ取ることができた。自ら歌うことで「音の重なり」を実感したからこそ、歌唱表現を経て再び鑑賞した際には、「音の重なり」の有無だけでなく、より豊かに感性を働かせ、その他の音楽を形づくる要素等も聴き味わえるようになった。

② 〔共通事項〕を要とした学習活動の工夫…隊形づくり・掲示物

表現と鑑賞の活動をつなぐ支えとなるのが〔共通事項〕である。この支えがあることで、身に付けさせたい力が明確になり学習活動を組み立てる際もポイントを絞りやすくなった。例えば、歌唱の際には「音の重なり」を実感させるために、聴き役を数名選んだり、向かい合って歌ったりするなど隊形を工夫した。また、鑑賞の際には二つの旋律を図形楽譜に表わして掲示物にすることで、「音の重なり」を視覚的にも分かりやすくした。

③ 学びの深まりをもたせる工夫…気づきを広げ深めるためにも〔共通事項〕を絞り込む表現と鑑賞の活動をつなぐ〔共通事項〕は、その全てを取り上げるのではなく、題材目標を達成させる・教材を生かすための〔共通事項〕に絞り込んだ。本題材であれば、まず「音の重なり」、そして「旋律」「反復」「強弱」「変化」である。

「音の重なり」に注目できるように指導計画を立てたことで、児童は「音の重なり」を中心として、さらに他の音楽を形づくっている要素に気付くことができた。

2 協議内容

協議の柱は、「『確かな学力』を育成する年間指導計画及び評価計画の工夫・改善」の具体としての、「思考力，判断力，表現力等を育む学習プロセスづくりの工夫」である。

特に本提案の協議においては、学習プロセスの中でも、「〔共通事項〕を要として、複数の領域・分野の関連を図った題材構成の指導の工夫・改善」について取り上げる。

(1) 提案に対する質疑応答・意見

- ・支えとなる〔共通事項〕があったことで、各時間の学習活動の目的が明確になり、評価のしやすさにもつながっている。
- ・視点を明確にして曲を鑑賞させているところが良い。
- ・図形楽譜という手立ては、「旋律」に注目することに対し大変効果的であった。

(2) 柱に対するグループ協議での意見

① 限られた時数の中での題材構成の工夫について

- ・限られた時数だからこそ、見通しを持った授業づくりを行う必要がある。
- ・表現と鑑賞を〔共通事項〕でつなぐ構成は、見通しを持った授業づくりにつながる。
- ・1年間、6年間という長いスパンで積み重ねて学ぶことが必要である。

② 思考力，判断力，表現力等を育むための工夫について

- ・見通しをもって題材構成を考えることによって、児童が題材に親しみ、目的意識を持って取り組めるようにする。
- ・児童に疑問に思う活動、発問を工夫する。
- ・鑑賞と表現をつなげることで、聴き方が深まっていく。

3 まとめ

(1) 提案に対する助言

① 題材をデザインすることについて

教科書にはたくさんの教材と〔共通事項〕が提示してある。全てを一つの題材で同じように扱うのではなく、児童の実態から、扱う共通事項を決め、授業のゴールがぶれないように題材をデザインすることが必要である。

② 鑑賞の大切さについて

どうすれば児童がその曲に耳を傾けるか、聴いて目標を達成できるかを考え、発問を吟味する必要がある。目的意識をもって聴くことで、児童の鑑賞の能力を育てたい。

また、児童が気付かない時には「先生だったら・・・」と伝えたり、児童の発言に対して「それって〇〇ってことかな」と問い返したりする中で、児童の気付きを引き出すことも必要である。そのことが語彙力を育てることにもつながる。

③ 評価について

例えば、ワークシートに児童が目標に沿った表現を書いていなければ、教員の手立てが足りなかったと捉えることができる。その場合には、改めて目標を達成させるための手立てを考えるべきである。

(2) 提案に関するまとめ

- ・「つなげる」「関連付ける」ことは「深い学び」につながる。これは新学習指導要領にも書かれていることである。表現と鑑賞をつなげることも大切にしていきたい。